

笑顔満開な最光の北中

五泉市立五泉北中学校だより 令和7年1月29日(水) 第10号

小さな勇気

校長

1月の3連休初日。急に熱が出ました。ついでにギックリ腰まで併発。「体調管理には気を付けましょう」といろいろな場面で呼び掛けておきながら、自分が体調を崩してしまいました。たまたまになって休日診療に。検査ではコロナもインフルエンザも陰性でしたが、数日経ってもなかなか治りません。3日経ち、薬が切れたので、今度はかかりつけの医者へ。その足で教え子(30年前の)が働いている調剤薬局へ。

「あっ、先生、お久しぶりです。どうされたんですか。」

「風邪が治らなくてね。歳を取ると治りが遅くてダメだね。」

.....

教え子から薬を受け取って、帰り際.....

「先生、早く元気になってくださいね。」

「ありがとう。今の一言で、元気が出てきたよ。.....。」

些細な誰かの優しさで ちょっと和らいだりするんだよな

本当に元気が出てきました。体調が悪かっただけになおさらです。教え子の何気ない一言が嬉しくて嬉しくて。その夜、一気に風邪が治りました。嘘みたいですが、本当です。

些細な誰かの優しさ(行動でも、言葉でも)で、痛みが、心が、和らいだります。背中を押されることもあります。特に、苦しい時、困っている時、ピンチの時、もうこれ以上頑張れないと思えるくらい頑張っている時。みなさんも、きっとそんな経験、あるでしょう。

では逆に、自分はピンチの人に、頑張っている人に、手を指し伸べているのか、優しい言葉掛けをしているのかというと.....。

私の答えは No です。いつも、「どうしようか」と迷ったあげく、勇気が出ずに後悔することの方が多いです。実際、教え子に言葉を掛けてもらった時も、最後に「K子(教え子の名前)も、体には気を付けてね。」と言葉を返そうと一瞬思ったのに、返せないまま薬局を出てしまったのですから。

ああ、小さな勇気があれば.....。

誰かがきっとあなたを待っている

どんな苦難も乗り切れる大きな勇気もほしいですが、
周りの人に、そっと手を差し伸べられる小さな勇気がほしいです。

あなたの周りに、あなたの小さな勇気を待っている人はいませんか。